

第26期 岡山県産業教育審議会

第1回会議 資料

1 最近の職業教育等に関する国・県の動向

- (1) 高等学校学習指導要領解説（平成30年7月）
 - 「職業に関する各教科・科目の改善について」[抜粋] . . . 1
- (2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元年12月）[抜粋]
 - 「高等学校の機能強化等」 . . . 4
- (3) 岡山県立高等学校教育体制整備実施計画（平成31年2月）[抜粋]
 - 「キャリア教育・職業教育の充実」 . . . 5
 - 「職業系学科・総合学科」 . . . 6
 - 「地域との連携・協働による教育の推進」 . . . 9

2 岡山県の職業教育等の現状

- (1) 職業に関する学科配置状況（令和2年度） . . . 10
- (2) 職業系学科の現況（令和2年度） . . . 13
- (3) 岡山県の高等学校卒業者の進路状況 . . . 14
- (4) 岡山県の専門高校等の特色ある取組
 - ① ” おかやま創生 高校パワーアップ事業”（平成28～令和2年度） . . . 17
 - ② ” 高等学校魅力化推進事業”
 - リーディングモデル（LM） 学校経営予算重点枠 . . . 18
 - リージョナルモデル（RM） . . . 19
 - ③ ” スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業” . . . 20
- (5) 資格取得状況（令和元年度） . . . 21

3 その他

- 県立高校におけるICT環境の整備について . . . 22
- 生徒1人1台端末を活用した新たな学びの推進 . . . 23
- 高校生の進路選択に関するアンケートについて . . . 25

1 最近の職業教育等に関する国・県の動向

(1) 高等学校学習指導要領解説（平成30年7月）

「職業に関する各教科・科目の改善について」[抜粋]

◎ 職業に関する各教科・科目

(1) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

① 現行学習指導要領の成果と課題

- 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉から成る職業に関する各教科においては、各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。
- また、職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携の下、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。あわせて、職業学科に学んだ生徒の進路が多様であることから、大学等との接続についても重要な課題となっている。

② 課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

- このような中、産業教育全体の目標の考え方については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて、三つの柱に沿って次のように整理することができる。

職業に関する各教科の「見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・ 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
- ・ 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
- ・ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

(2) 具体的な改善事項

①教育課程の示し方の改善

i) 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 前述の三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、産業教育において従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。
- このような学習については、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果を基に計画を検証する「振り返り」、といった過程に整理することができる。この過程においては、例えば、「課題の発見」では、学びに向かう力や人間性として、よりよい社会の構築に向け課題を発見しようとする態度が、「計画の実施」では、思考力・判断力・表現力として、専門的な知識・技術を活用する力が育まれることが想定される。

②教育内容の改善・充実

- 今回の改訂においては、前述のような資質・能力の育成を前提に、社会や産業の変化の状況等や学校における指導の実情を踏まえて、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応についての視点から改善を図ることが求められる。また、こうした社会や産業の変化の状況等に対応する観点からも、経営等に関する指導についてはより重要となっており、例えば、農林水産業などの各産業においては、経営感覚に優れた次世代の人材の育成に向けた指導の充実などが求められる。

③学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

i) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 産業教育においては、企業等と連携した商品開発、地域での販売実習、高度熟練技能者による指導など、地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を重視してきた。

(「主体的な学び」の視点)

- ・ 企業等での高度な技術等に触れる体験は、キャリア形成を見据えて生徒の学ぶ意欲を高める「主体的な学び」につながるものである。

(「対話的な学び」の視点)

- ・ 産業界関係者等との対話、生徒同士の協議等は、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」につながるものである。

(「深い学び」の視点)

- ・ また、社会や産業の具体的な課題に取り組むに当たっては、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、よりよい製品の製造やサービスの創造等を目指すとい

った「深い学び」につなげていくことが重要である。「深い学び」を実現する上では、課題の解決を図る学習や臨床の場で実践を行う「課題研究」等の果たす役割が大きい。

- これらの学びを実現するためには、地域や産業界等との連携が重要であり、産業教育においては、今後とも地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を充実し、アクティブ・ラーニングの三つの視点から、これらの学習活動を再確認しながら、不断の授業改善に取り組むことが求められる。

ii) 教育環境の充実

(産業界等との連携)

- 地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動は、アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた学びを実現する上でも重要なものであることから、地域や産業界等との連携がより一層求められる。このような連携を促進するためには、各地域の産業教育振興会等と協力して、定期的に学校と産業界等が情報交換を行うとともに、教育委員会、地方公共団体の関係部局、経済団体等が協力し、インターンシップの受入れや外部講師の派遣の調整を行うなどといった取組も期待される。

(中学校や大学等との接続)

- 研修を通じて中学校の教員が職業の多様性や専門高校について理解を深めることや、産業教育フェア等の取組によって、中学生の主体的な進路選択に資するよう、専門高校での学習に対する理解・関心を高めることも求められる。
- 現在実施されている大学入学者選抜は、共通教科を中心としていることが多いため、アドミッション・ポリシー等に応じ、専門高校での学びを積極的に評価できる入学者選抜の実施の拡大が望まれる。また、農業大学校や職業能力開発大学校などの省庁系大学校等との連携・協力の促進等も求められる。

(教員研修等の充実)

- 教員の資質・能力を向上させるための研修の機会等の充実、大学が教育委員会等と連携した教員養成課程の充実、実務経験が豊富な社会人の活用が求められる。

(実験・実習の環境整備)

- 計画的な施設・設備の改善・充実・更新、生産や販売実習等の学習活動を円滑に実施するための地方公共団体における関係する財務規則等の整理などの環境整備が求められる。

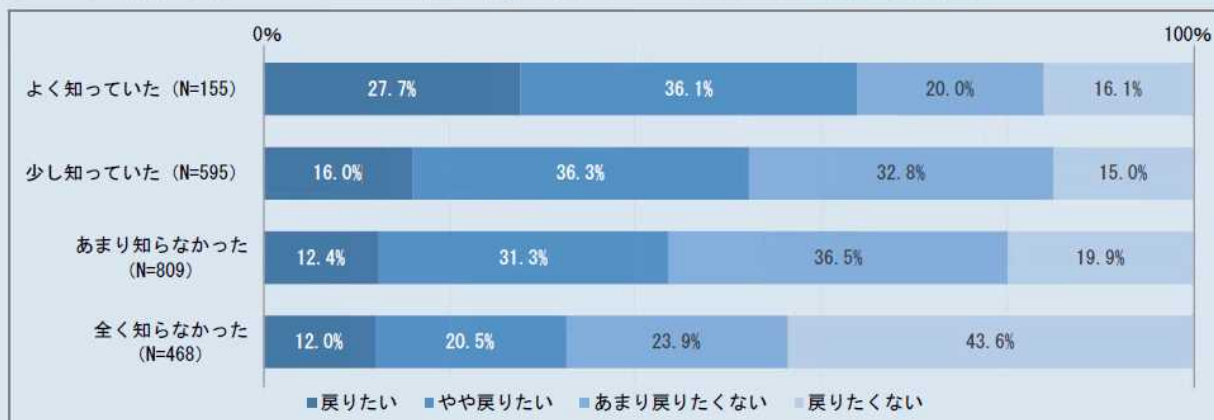
(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元年12月）〔抜粋〕

＜ 若者の修学・就業による地方への定着の推進 ＞

◎高等学校の機能強化等

出身市町村へ親しみを持つ者、高校時代までの間に地元企業を知っていた者は、将来的に出身市町村へのUターンを希望する割合が高い傾向にあるなど、自らの地域を知ることが、将来的なUターン、そして、地域の将来を支える人材の確保につながる可能性がある。小学校・中学校・高等学校では、関係する各教科等において地域に関する内容が実施されているほか、総合的な学習の時間においても、「地域の人々の暮らし」や「伝統と文化」をテーマとした取組も行われている。このように、小学校・中学校・高等学校において、各教科等の学習を通じて、地域の産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」等により、地域に誇りを持つ人材の育成を推進する。

図31 出身市町村へのUターン希望-高校時代までの地元企業の認知程度別-



(出典) 独立行政法人労働政策研究・研修機構「UIJターンの促進・支援と地方の活性化―若年期の地域移動に関する調査結果―」(2016年)

これに加え、地域への課題意識や貢献意識を持ち、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えることができる人材の育成に向けて、高等学校の段階で地域を知り、親しむ機会を創出することが重要である。

このため、地域と高等学校の協働によるコンソーシアムの構築や、地域と高等学校をつなぐコーディネーターの配置・活用、キャリア教育、RESASを用いた地域学習など、地域と高等学校が連携・協働して、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組等を推進する。あわせて、全国から高校生が集まるような魅力的な高校づくりを支援し、高校生が他の地域の高校で学ぶ「地域留学」を推進する。また、地域経済の活性化を担う人材を養成する農業高校、工業高校、商業高校などの専門高校等においては、地方公共団体や産業界、大学等との連携・協働による実践的な職業教育を推進するとともに、実験・実習に必要となる産業教育施設・設備の充実を図り、質の高い専門的な教育を推進する。

＜ キャリア教育・職業教育の充実 ＞

◎基本的な考え方

地域や産業界等との連携により、学習した知識や技能を進路に結び付けて考える実践的な機会の充実を図り、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、望ましい勤労観・職業観の育成・確立を目指す。

◎今後の方策

①体系的・系統的なキャリア教育の充実

- ・義務教育での基盤の上に、高等学校卒業後の社会との接続を見通した体系的・系統的なキャリア教育の充実を図る。
- ・普通系学科においても、上級学校進学後に社会に出ることを見据えた職業理解等の取組の充実を図るとともに、高等学校卒業時点で社会に出る生徒がいることも踏まえ、学校で学ぶことと社会との接続を意識した教育内容の検討を行う。
- ・生徒の興味・関心や進路希望、学校や地域の実態等を考慮し、地域や産業界等との連携により、実践的で効果的な体験活動の充実を図る。

②インターンシップ等やデュアルシステムの充実

- ・普通系学科におけるインターンシップ等や、職業系学科におけるデュアルシステムの充実を図る。
- ・将来の地元定着やUターン就職の促進に向けて、地元就職を目指す高校生だけでなく、大学進学等を機に地元を離れる高校生も対象とした地元企業へのインターンシップ等を推進する。
- ・県内外の多くの企業が海外で事業展開しており、県内企業の海外事業所におけるインターンシップ等の推進を検討する。

③職業教育の充実

- ・地域や産業界等との連携によるビジネスプランの作成や起業体験等、実践的な学習活動の充実を図る。
- ・職業資格の取得に向けた取組の充実を図る。

(3) 岡山県立高等学校教育体制整備実施計画（平成31年2月）[抜粋]

< 職業系学科 >

◎基本的な考え方

- ・学校や地域の活性化の観点から、農林業をはじめ、製造業や卸売・小売業など地域の産業を担う人材や、地元の地域資源を活用した新たな産業を担う人材の育成を図る。
- ・全県的なバランスを考えて学科を配置しているが、時代の変化や社会のニーズに対応できるように、本県の産業施策と連携した学科の見直しを適宜行う。
- ・小規模校化が進む中にあるには、地域のニーズや特性に応じて、学科を配置していくことが重要であり、6次産業化や地域資源を活用した地域産業を担う人材を育成する観点から、また、地域産業を継承していく観点から、学科を適正に配置する。

◎今後の方策

- ・農業、工業、商業、家庭、看護、情報、福祉の各大学科の特色を生かし、地域や産業界等のニーズに応じた人材を育成する。
- ・攻めの農林業や次世代産業を担う人材、観光資源の活用や起業、継業により地域を支える人材を育成する学科やコース、類型の設置を検討する。
- ・小学科の在り方については、小規模校化も考慮し、都市部においては、隣接校間で役割分担を図り、周辺部においては、相互の関連性に配慮しながら小学科を統合し、広範な専門領域を有する学科への改編を検討する。
- ・より高度な知識及び技能を身に付けた社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成に向け、企業や大学等の支援を受け、先進的で卓越した取組や理論の学習を推進する。
- ・インターンシップ等とともに、実際の・実践的な職業知識や技術・技能の育成を目指し、デュアルシステムの充実を図る。

農業に関する学科

- ・作物、野菜、果樹、草花、畜産、農業経営、農業機械、食品製造、林業、農業土木、造園、生物活用等の地域農業を支える分野の学びを通して、地方創生を担う農業や農業関連産業の振興に貢献できる職業人の育成が求められている。
- ・今後、持続可能で多様な環境、農業経営のグローバル化や6次産業化、安全・安心な食料の持続的な生産、農業の技術革新と高度化等に対応した教育内容や、地域資源に関する教育内容の充実を図る。

工業に関する学科

- ・専門的な知識・技術の定着を図るとともに、ものづくりを通して、科学技術の進展など多様な課題に対応できる課題解決能力を持った、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められている。
- ・今後、地域や産業界等との連携を密にしながら、技術の高度化、安全・安心な社会の構築、環境保全やエネルギーの有効な活用、情報技術の発展、地域や社会の健全で持続的な発展に対応した教育内容の充実を図る。

商業に関する学科

- ・マーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の各分野での専門的な学習や地方創生の観点から地域ビジネスの学びを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められている。
- ・今後、グローバル化の急速な進展、ICTの進歩とインターネットを活用したビジネスの普及、観光立国を目指した観光産業の振興、地域におけるビジネスの推進、ビジネスにおけるコミュニケーション能力とマネジメント能力の向上に対応した教育内容の充実を図る。

家庭に関する学科

- ・衣食住、保育、家庭看護や介護などヒューマンサービスに関連する生活産業の学びを通して、持続可能な社会の構築を目指し、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人の育成が求められている。
- ・今後、少子化・高齢化、食育推進、調理師養成、多様化・複雑化する消費生活等及び生活文化の伝承・創造に対応した教育内容の充実を図る。

看護に関する学科

- ・少子化・高齢化の進展、医療技術の高度化・専門化により、地域医療等に貢献できる看護職員の確保、看護職員の資質向上に向けた養成力の強化等が求められている。
- ・今後、5年一貫の看護教育を通して、専門性の高い実践力を養い、医療安全、倫理的課題等に関する教育内容の充実を図る。

情報に関する学科

- ・情報産業の急速な変化に対応できるよう、基礎的・基本的な知識・技術の習得を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められている。
- ・今後、上級学校への進学や情報のスペシャリストとして活躍する生徒の専門性を深めることができるよう、高度なIT人材の育成に対応した教育内容の充実を図る。

福祉に関する学科

- ・福祉ニーズの高度化と多様化により、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成が求められている。
- ・今後、倫理的課題、マネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットを含む福祉機器の進歩、医療的ケアに対応した教育内容の充実を図る。

< 総合学科 >

◎基本的な考え方

- ・一人一人の多様な進路希望を実現するために、普通科目とともに、専門科目を幅広く開設するなど、地域と連携しながら、普通系学科や職業系学科にはない魅力づくりを図る。
- ・「育てたい生徒像」や具体的な進路、そして何が学べるかを中学生や保護者、地域に分かりやすく発信する。

◎今後の方策

- ・生徒の志願動向や地域のニーズに応じて、必要な教育内容に改善し、系列等の見直しを図る。
- ・何を学べるか、どのような能力を身に付けることができるかなど、各学校の特色や強みを中学生や保護者が理解できるよう、系列や選択できる科目等を積極的に広報する。

(3) 岡山県立高等学校教育体制整備実施計画（平成31年2月）[抜粋]

< 地域との連携・協働による教育の推進 >

◎基本的な考え方

地域との連携・協働による教育を進め、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、課題を発見し解決する力を育成し、卒業後に地元で活躍できる人材や、大学進学等で一旦地元を離れても再び戻ってくる人材など、県内外において様々な分野で主体的に活躍できる人材の育成を目指す。

◎今後の方策

①「地域学」の充実

- ・「地域学」は、生徒の課題を発見し解決する力の向上に有効であるとともに、生徒の社会参画の意識を高め、地域への愛着や誇りを醸成し、地域の活性化に貢献する人材育成の面でも期待されることから、各学校の実態に応じて、地域と協働して取り組む。

②防災・安全教育の充実

- ・安全・安心な地域づくりへ参画しようとする意識の高揚を図るため、地域で開催される防災に関する行事への高校生の主体的な参加や、小・中学校との合同防災訓練などの実施を促進する。

③幅広い住民等（自治体、企業、大学、NPO等）との積極的な連携の推進

- ・地域の小・中学校の取組を踏まえ、市町村教育委員会と協力しながら、特色ある教育活動や「地域学」での小中高連携を一層推進する。
- ・地域に複数の高等学校がある場合には、学校間で連携を進め、社会貢献活動や「地域学」等において、地域の高校生として共に活動する取組を推進する。
- ・地元自治体や企業、NPO等の協力により、地域の産業や企業を知る機会の充実を図るとともに、大人と中高生が連携した地域の魅力づくりの取組を推進する。
- ・県内の大学や研究機関等との連携を推進する。

④コミュニティ・スクールの導入

- ・地域や学校の特色に応じた教育内容の充実、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域と学校の実態に応じて、コミュニティ・スクールを導入する。

2 岡山県の職業教育等の現状

(1) 職業に関する学科配置状況（令和2年度）

農業に関する学科

作物、野菜、果樹、草花、畜産、農業経営、農業機械、食品製造、林業、農業土木、造園、生物活用等の地域農業を支える分野の学びを通して、地方創生を担う農業や農業関連産業の振興に貢献できる職業人の育成が求められています。

公立高校

高松農業高校	農業科学科 園芸科学科 畜産科学科 農業土木科 食品科学科	井原高校	園芸科 (R3募集停止)
興陽高校	農業科 農業機械科 造園デザイン科	新見高校	生物生産科
瀬戸南高校	生物生産科 園芸科学科	真庭高校	生物生産科 食品科学科
		勝間田高校	グリーン環境科 (H31募集停止) 食品科学科 (H31募集停止)

※新見高校は単位制。

工業に関する学科

専門的な知識・技術の定着を図るとともに、ものづくりを通して、科学技術の進展など多様な課題に対応できる課題解決能力を持った、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められています。

公立高校

岡山工業高校	機械科 電気科 情報技術科 化学工学科 土木科 建築科 デザイン科	水島工業高校	機械科 電気科 情報技術科 工業化学科 建築科
東岡山工業高校	機械科 電子機械科 電気科 設備システム科 工業化学科	津山工業高校	機械科 ロボット電気科 工業化学科 土木科 建築科 デザイン科
倉敷工業高校	機械科 電子機械科 電気科 工業化学科 ファッション技術科 (H31募集停止) テキスタイル工学科 (H31新規募集)	笠岡工業高校	電子機械科 電気情報科 環境土木科
		高梁城南高校	電気科 デザイン科
		新見高校	工業技術科
		倉敷市立工業高校	機械科（定） 電気科（定）
		玉野市立玉野商工高校	機械科

※新見高校は単位制。

私立高校

関西高校	電気科	おかやま山陽高校	機械科
岡山商科大学附属高校	自動車科		自動車科

商業に関する学科

マーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の各分野での専門的な学習や地方創生の観点から地域ビジネスの学びを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められています。

公立高校

西大寺高校	商業科
岡山東商業高校	ビジネス創造科 情報ビジネス科
岡山南高校	商業科 国際経済科 情報処理科
倉敷鷺羽高校	ビジネス科
倉敷商業高校	商業科 国際経済科 情報処理科
玉島商業高校	ビジネス情報科

(定)は定時制

津山商業高校	地域ビジネス科 情報ビジネス科
笠岡商業高校	商業科 情報処理科
新見高校	総合ビジネス科
勝山高校	ビジネス科
矢掛高校	地域ビジネス科
玉野市立玉野商工高校	ビジネス情報科
倉敷市立精思高校	商業科 (定)
倉敷市立玉島高校	商業科 (定)

※新見高校は単位制。

私立高校

関西高校	商業科 ITビジネス科
倉敷高校	商業科
倉敷翠松高校	商業科

家庭に関する学科

衣食住、保育、家庭看護や介護などヒューマンサービスに関連する生活産業の学びを通して、持続可能な社会の構築を目指し、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人の育成が求められています。

公立高校

興陽高校	家政科 被服デザイン科
瀬戸南高校	生活デザイン科
岡山南高校	生活創造科 服飾デザイン科
倉敷中央高校	家政科

津山東高校	食物調理科
井原高校	家政科 (R3募集停止)
総社高校	家政科
高梁高校	家政科

※高梁高校は単位制。

私立高校

倉敷翠松高校	生活科学科
--------	-------

おかやま山陽高校	調理科 製菓科
----------	------------

看護に関する学科

少子化・高齢化の進展、医療技術の高度化・専門化により、地域医療等に貢献できる看護職員の確保、看護職員の資質向上に向けた養成力の強化等が求められています。

公立高校

倉敷中央高校	看護科
津山東高校	看護科
真庭高校	看護科

※看護科は5年一貫制（専攻科設置）。

私立高校

創志学園高校	看護科
倉敷翠松高校	看護科

※看護科は5年一貫制（専攻科設置）。

情報に関する学科

情報産業の急速な変化に対応できるよう、基礎的・基本的な知識・技術の習得を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が求められています。

公立高校

玉野光南高校	情報科
--------	-----

※玉野光南高校は単位制。

私立高校

岡山龍谷高校	情報科
--------	-----

福祉に関する学科

福祉ニーズの高度化と多様化により、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成が求められています。

公立高校

倉敷中央高校	福祉科
--------	-----

その他の学科

その他に、特色のある専門学科を設置している学校があります。

公立高校

井原高校	地域生活科 (R3新規募集)
高梁城南高校	環境科学科

私立高校

高梁日新高校	ビューティー科
--------	---------

総合学科

一人一人の多様な進路希望を実現するために、普通科目とともに、専門科目を幅広く開設するなど、地域と連携しながら、生徒の多様な進路希望に対応しています。

公立高校

岡山御津高校	岡山市立岡山後楽館高校
鴨方高校	倉敷市立倉敷翔南高校（定）
備前緑陽高校	
勝間田高校	

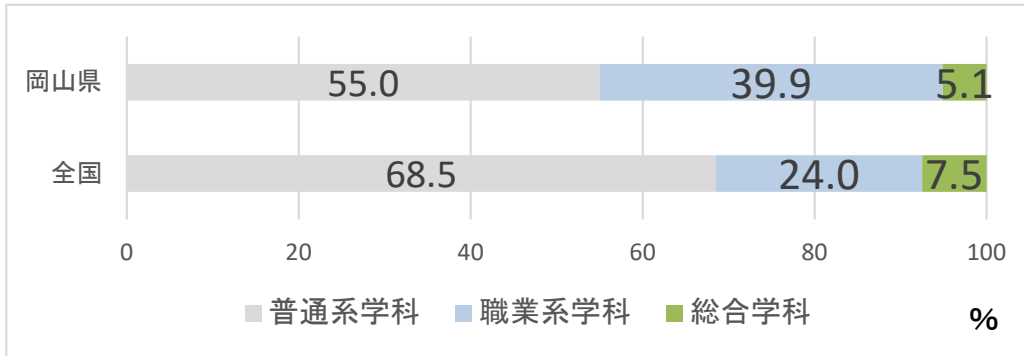
私立高校

岡山商科大附属高校

(2) 職業系学科の現況

① 学科構成比率（令和2年度：県立全日制）

（県教委調べ）



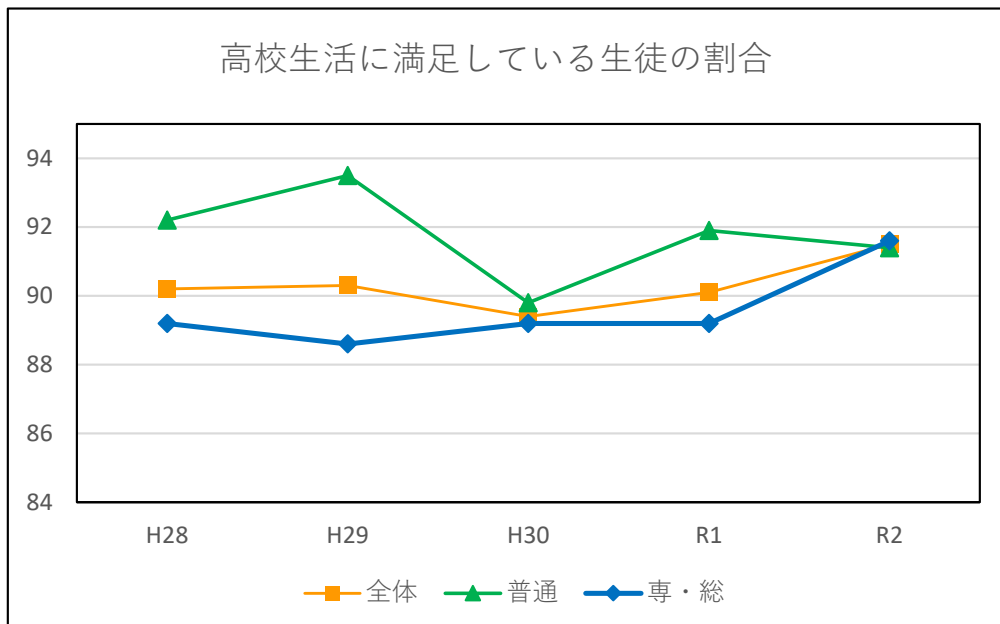
② 志願状況（令和2年度：県立全日制）

（県教委調べ）

学 科 名	募集定員	特別入学等合格者数	一般入学募集人員(a)	志 願 者 数			令和2年度	(参考)平成31年度	令和2年度一般倍率
				男	女	計(b)			
普通科	5,095	734	4,361	2,248	2,268	4,516	1.04	1.02	普通科・普通系 1.07
理数科	80	80	0	—	—	—	—	—	
普通科	440	—	499	313	262	575	1.15	1.13	
普通科	120	61	—	—	—	—	—	—	
国際系	160	—	180	135	159	294	1.63	1.46	
その他普通系	40	20	—	—	—	—	—	—	専門科（職業系） 1.11
その他普通系	120	64	56	21	32	53	0.95	0.97	
体育科	80	80	0	—	—	—	—	—	
農業科	580	292	288	172	107	279	0.97	1.24	
工業科	1,710	855	855	884	133	1,017	1.19	1.28	
商業科	1,595	797	798	367	530	897	1.12	1.26	総合学科 0.51
家庭科	440	220	220	9	212	221	1.00	1.22	
看護科	120	64	56	3	47	50	0.89	1.27	
情報科	40	20	20	16	6	22	1.10	1.00	総合学科 0.51
福祉科	40	20	20	2	15	17	0.85	1.00	
その他	40	20	20	9	12	21	1.05	1.00	
総合学科	580	270	310	101	58	159	0.51	0.93	総合学科 0.51
計	11,280	3,597	7,683	4,280	3,841	8,121	1.06	1.10	

③ 高校生活に関する意識調査（令和2年度：県立全日制：抽出）

（県教委調べ）

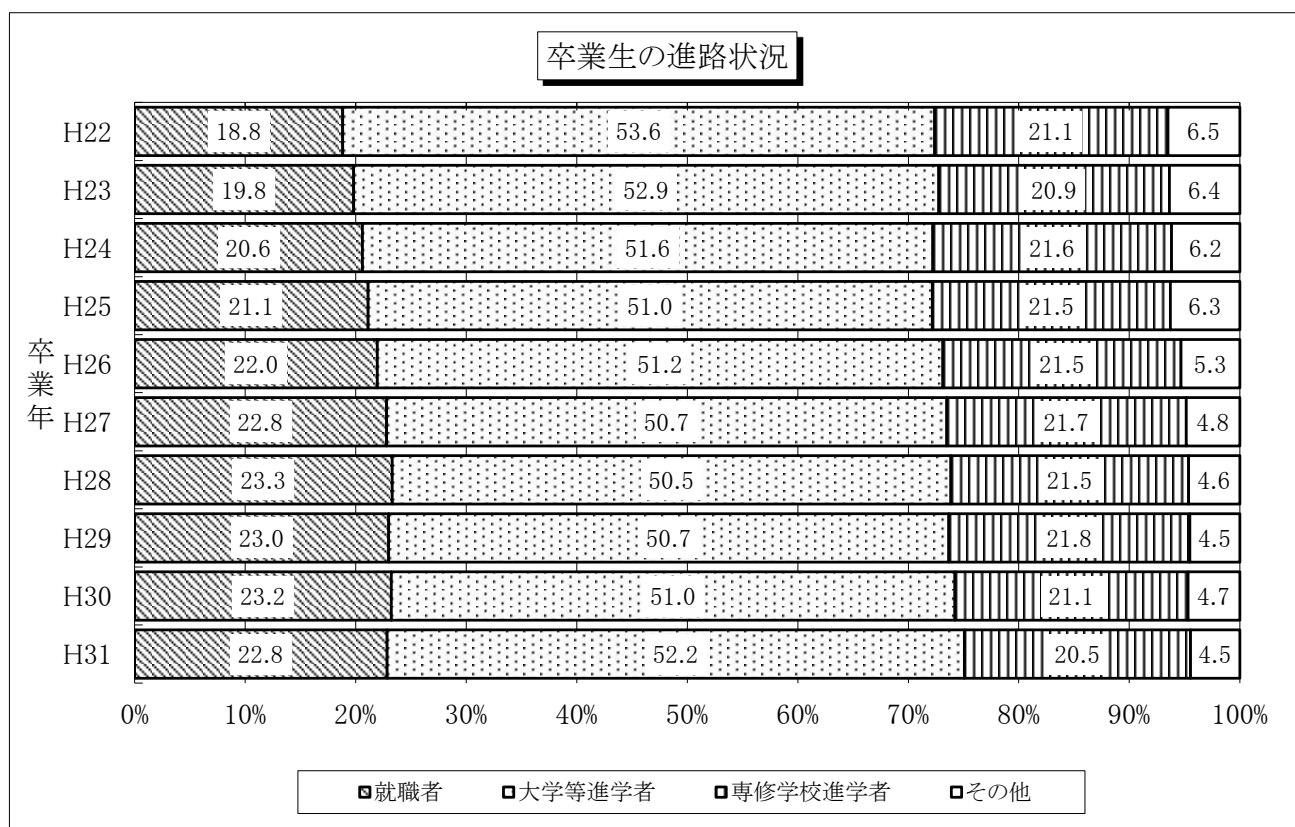


(3) 岡山県の高等学校卒業者の進路状況

※以下のデータは「岡山県学校基本統計（学校基本調査報告書）」（岡山県総合政策局統計分析課）による。

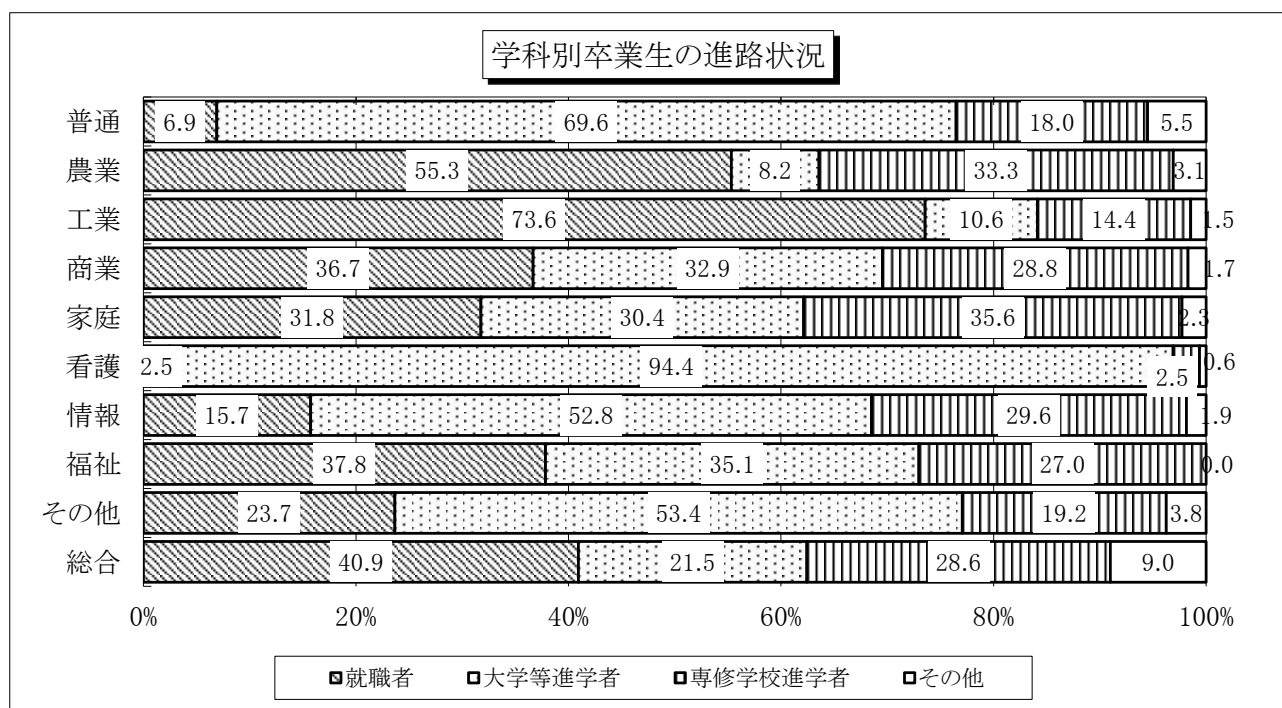
① 卒業生の進路状況

卒業年	就職者	大学等進学者	専修学校進学者	その他
H22年3月卒業	18.8	53.6	21.1	6.5
H23年3月卒業	19.8	52.9	20.9	6.4
H24年3月卒業	20.6	51.6	21.6	6.2
H25年3月卒業	21.1	51.0	21.5	6.3
H26年3月卒業	22.0	51.2	21.5	5.3
H27年3月卒業	22.8	50.7	21.7	4.8
H28年3月卒業	23.3	50.5	21.5	4.6
H29年3月卒業	23.0	50.7	21.8	4.5
H30年3月卒業	23.2	51.0	21.1	4.7
H31年3月卒業	22.8	52.2	20.5	4.5



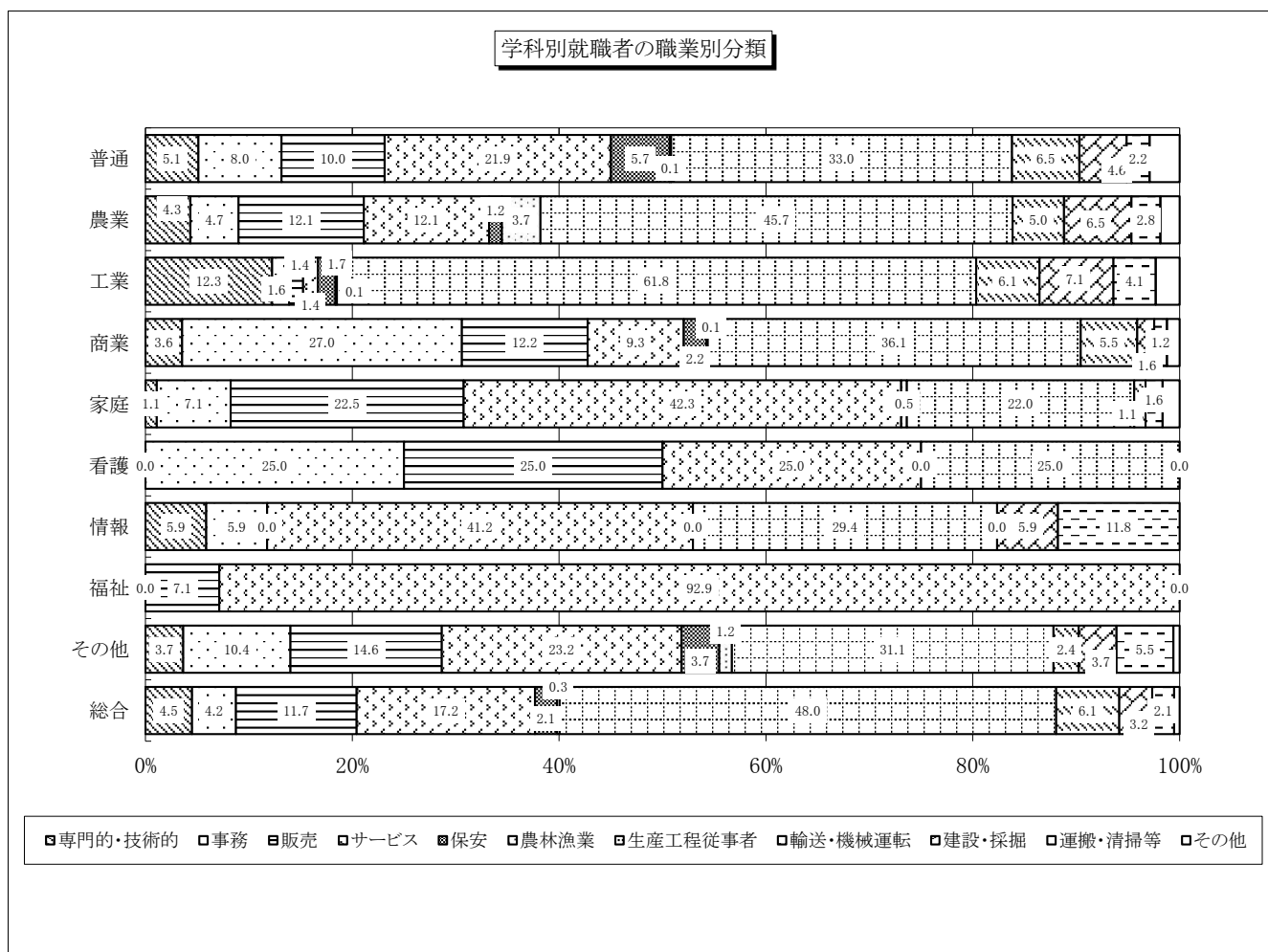
② 学科別卒業生の進路状況（H31年3月卒）

学 科	就職者	大学等進学者	専修学校進学者	その他
普 通	6.9	69.6	18.0	5.5
農 業	55.3	8.2	33.3	3.1
工 業	73.6	10.6	14.4	1.5
商 業	36.7	32.9	28.8	1.7
家 庭	31.8	30.4	35.6	2.3
看 護	2.5	94.4	2.5	0.6
情 報	15.7	52.8	29.6	1.9
福 祉	37.8	35.1	27.0	0.0
そ の 他	23.7	53.4	19.2	3.8
総 合	40.9	21.5	28.6	9.0



③ 学科別就職者の職業別分類（H31年3月卒）

学科名	専門的・技術的	事務	販売	サービス	保安	農林漁業	生産工程従事者	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃等	その他
普通	5.1	8.0	10.0	21.9	5.7	0.1	33.0	6.5	4.6	2.2	2.9
農業	4.3	4.7	12.1	12.1	1.2	3.7	45.7	5.0	6.5	2.8	1.9
工業	12.3	1.6	1.4	1.4	1.7	0.1	61.8	6.1	7.1	4.1	2.3
商業	3.6	27.0	12.2	9.3	2.2	0.1	36.1	5.5	1.6	1.2	1.2
家庭	1.1	7.1	22.5	42.3	0.0	0.5	22.0	1.1	0.0	1.6	1.6
看護	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
情報	5.9	5.9	0.0	41.2	0.0	0.0	29.4	0.0	5.9	11.8	0.0
福祉	0.0	0.0	7.1	92.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3.7	10.4	14.6	23.2	3.7	1.2	31.1	2.4	3.7	5.5	0.6
総合	4.5	4.2	11.7	17.2	2.1	0.3	48.0	6.1	3.2	2.1	0.5



(4) 岡山県の専門高校等の特色ある取組

① ”おかやま創生 高校パワーアップ事業”

事業の趣旨

地域の課題やニーズを踏まえ、おかやま創生を担う人材の育成や地域の活性化に貢献する高校の魅力化を図り、今後、おかやま創生のモデルとして、県下への展開を行う。


第1期	上：学校名 下：研究テーマ	上：地域連携 下：生徒の変容	活動の様子
農業・家庭	瀬戸南高等学校 グローバル市場を目指す「攻めの農業経営」人材の育成	○地域連携組織を活用した、6次産業化の実現や海外販売実習（台湾）の実施 ○農業関連の企業への就職（生産、農業資材、農業機械）と進学（農業大学校、4年制大学）の増加	 台湾販売実習
看護・農業	真庭高等学校 森林資源を活用したまちづくりを担う人材の育成	○地域住民組織と連携した、グループ別探究活動の充実 ○自己肯定感や達成感による生徒のコミュニケーション能力の伸長	 農業視察研修
総合	鴨方高等学校 産官学連携による環境保全活動を通じた地域貢献人材の育成	○地元小中学校との連携（学校支援ボランティアやイベント） ○「人との関わり方を学ぶことができた」等、自己肯定感の高まり	 市内フィールドワーク
総合・農業	勝間田高等学校 木材資源を活用した地域振興を担う人材の育成	○ワサビ田の復活、木質バイオマスの提供など地域資源の活用 ○様々な取組に参加することによる、生徒の自己肯定感の高まり	 木質バイオマス見学
第2期	上：学校名 下：研究テーマ	上：地域連携 下：地域連携組織	活動の様子
農業・家庭	井原高等学校 地方創生に貢献する人材の育成～地域に求められる学校づくり～	○「デニム学」を核とした幼保・小・中・高連携によるカリキュラム開発 ○井原市、商工会議所、国際交流協会、井原市中学校校長会、農業大学校等	 綿栽培に関する小学生との交流学习
農業 工業 商業	新見高等学校 産学官連携による、新見地域の多様な資源を活用した、街づくりを担う人材の育成	○地元企業や小中学校との連携した教育活動 ○商工会議所、新見公立大学、新見市立中学校長、新見市等	 3科協働の県外販売実習

② ”高等学校魅力化推進事業”




時代をリードする学科等を研究し、新学科等の設置を目指すリーディングモデルグループ（LM）2校を指定し、より高度な知識及び技能を身に付けた専門的職業人の育成に向けた学科やコースの研究、カリキュラム開発等、県立高校の魅力化の促進を図る。（他に岡山朝日高校）

県教委では、県立高校の魅力化を推進するため、2019年度から「学校経営予算重点枠事業」により、次の専門高校3校において時代をリードする教育内容等を研究する。（他に総社南高校）

リーディングモデル（LM）

	上段：学校名 下段：研究テーマ	研究の内容	活動の様子
工業	岡山工業高等学校 STEAM教育による、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成	○岡工版STEAM教育の構築（科を越えたPBL活動の実施） ○大学・企業等と連携した最先端の実践的学習	 ブレインストーミング演習

学校経営予算 重点枠

	上段：学校名 下段：研究テーマ	研究の内容	活動の様子
農業	興陽高等学校 スマート農業による未来の農業を支える後継者の育成	○探究的な学び（ドローンを活用した稲の生育状況分析、簡易型環境制御装置の制作等）の実施 ○持続可能性や他校への普及可能性を研究	 GPS機能を用いた機器の研修
商業	岡山東商業高等学校 商店街と連携した「起業・継業」を担う人材の育成	○表町商店街を基点とした地域連携及び探究活動 ○地域資源や課題を関係者と共有し解決策等を考察する組織の構築	 商店街での取組
商業	倉敷商業高等学校 観光産業振興に対応する学びを通じたビジネスリーダーの育成	○先進校視察 ○地域経済分析システムの活用	 美観地区での観光ガイド

② ”高等学校魅力化推進事業”

県立高等学校の魅力化に向け、3学級規模の高校が地域との連携の在り方等を研究し、配置したコーディネーターを活用した地域との連携促進など、教育の質を確保した魅力づくりを図るリージョナルモデルグループ（RM）を指定し、県立高校の魅力化の促進を図る。（他に和気閑谷高校、矢掛高校）

リージョナルモデル（RM）

	上段：学校名 下段：研究テーマ	取組の内容	活動の様子
工業	笠岡工業高等学校 地域の担い手づくり ～地域のお役に立てる 「人財」の育成～	○アマモ場のドローン測量やイノシシの箱罠製作など「笠工テクノ工房」を軸とした活動 (笠岡市役所との連携)	 アマモ場のドローン測量
商業	笠岡商業高等学校 地域資源を活かした学び の実践による人材の育成	○笠岡諸島の魅力を発信する観光ツアーの企画・観光ガイドの実践(地元の協議会や観光業者との連携) ○笠岡教育DMOとの連携による教育活動	 観光ツアーを企画・運営
工業 その他	高梁城南高等学校 「城南カフェ」を中心とした地域創生人材の育成	○空き店舗を活用した「城南カフェ」経営を通じた課題発見型学習の実施 (高梁市や地元観光協会との連携)	 城南お城カフェ
総合	鴨方高等学校 産官学連携による地域貢献及び人材の育成（ASP）	○地域の自治体・施設・企業の職業人との交流 (浅口市や施設、大学等との連携)	 施設での高齢者との交流

③スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業

1 事業の概要

廃棄物のリサイクル技術の研究・開発など環境教育を重点的に行う学校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、課題に気付き、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図る。

2 これまでの取り組み

年 度	学校名	内 容
平成15～17年度	水島工業・興陽	BDF地域循環
平成16～18年度	倉敷工業	ペットボトルでフラワーポット、支柱
	津山工業	廃油石けん、水質浄化
	笠岡工業	古紙シュレッダーでフラワーポット
平成18～20年度	高松農業	家畜糞尿でメタン発酵
平成19～21年度	東岡山工業	古紙シュレッダーでアルコール発酵
平成22～24年度	岡山工業	地域の廃コンクリートで再生コンクリート
	笠岡工業	カキ殻で漁礁、アマモ養殖板
平成24～26年度	高梁城南	廃オガクズの有効利用
平成27～29年度	津山工業	廃油石けん、廃竹林の有効利用

3 現在の研究開発実施校

○倉敷工業高等学校（令和元年度～令和3年度）

端切れ繊維を酵素の働きにより糖化し、発酵によりアルコール化することで資源の有効利用を促進する。製造したアルコールは消毒や清掃用、香料などとして利用する。また、研究過程で生じた残渣によるものづくり体験は、地域連携のイベントなどでの実施を目指す。



○岡山工業高等学校（平成30年度～令和2年度）

鉄鋼スラグを活用した高機能コンクリート部材について、高大連携推進の下、設計・製作・各種試験等の研究を行う。さらに、地域と連携し、鉄鋼スラグを活用したコンクリート部材を地域内で有効利用することにより、産業副産物の有効利用、環境負荷低減材料の開発を目指す。



(5) 資格取得状況(令和元年度)

○農業関係高校(公立 8校)

資格種目	人数
日本農業技術検定 3 級	116
技能検定 (園芸装飾) 3 級	28
技能検定 (造園) 3 級	11
トレース技能検定 1 級	14
食品衛生責任者	9

○工業関係高校(公立 9校)

資格種目	人数
危険物取扱者 (甲種)	7
電気工事士 (1 種)	63
測量士補	3
技能検定 (普通旋盤) 2 級	1
技能検定 (普通旋盤) 3 級	42
技能検定 (機械系保全) 2 級	1
技能検定 (フライス盤) 3 級	2
技能検定 (機械検査) 3 級	130
技能検定 (鋳造) 3 級	54
技能検定 (電子機器組立) 3 級	13
技能検定 (建築大工) 3 級	1
溶接技能者評価試験 (専門級)	3
溶接技能者評価試験 (基本級)	17
計算技術検定 1 級	7
電気工事施工管理技術検定 2 級	5
建築施工管理技術検定 2 級	1
管工事施工管理技術検定 2 級	3
土木施工管理技術検定 2 級	61
基本情報技術者	3
I T パスポート	12
情報技術検定 1 級	12

○商業関係高校(公立 11校)

資格種目	人数
応用情報技術者	1
基本情報技術者	10
I T パスポート	55
情報セキュリティマネジメント	3
日商簿記 1 級	2
日商簿記 2 級	102
販売士検定 3 級	12
実用英語技能検定 2 級	29
実用英語技能検定準 2 級	71
秘書検定 2 級	54
全経簿記能力検定上級	1
FP技能士 (フィナンシャルプランナー) 3 級	1

○家庭科関係高校(公立 5校)

資格種目	人数
被服製作 (和服) 1 級 被服製作 (洋服) 1 級 食物調理 1 級	全取得 42

○看護関係高校(公立 3校)

資格種目	人数
看護師国家試験	88
合格率	97.8%
※全国合格率 (全体)	94.7%

○福祉関係高校(公立 1校)

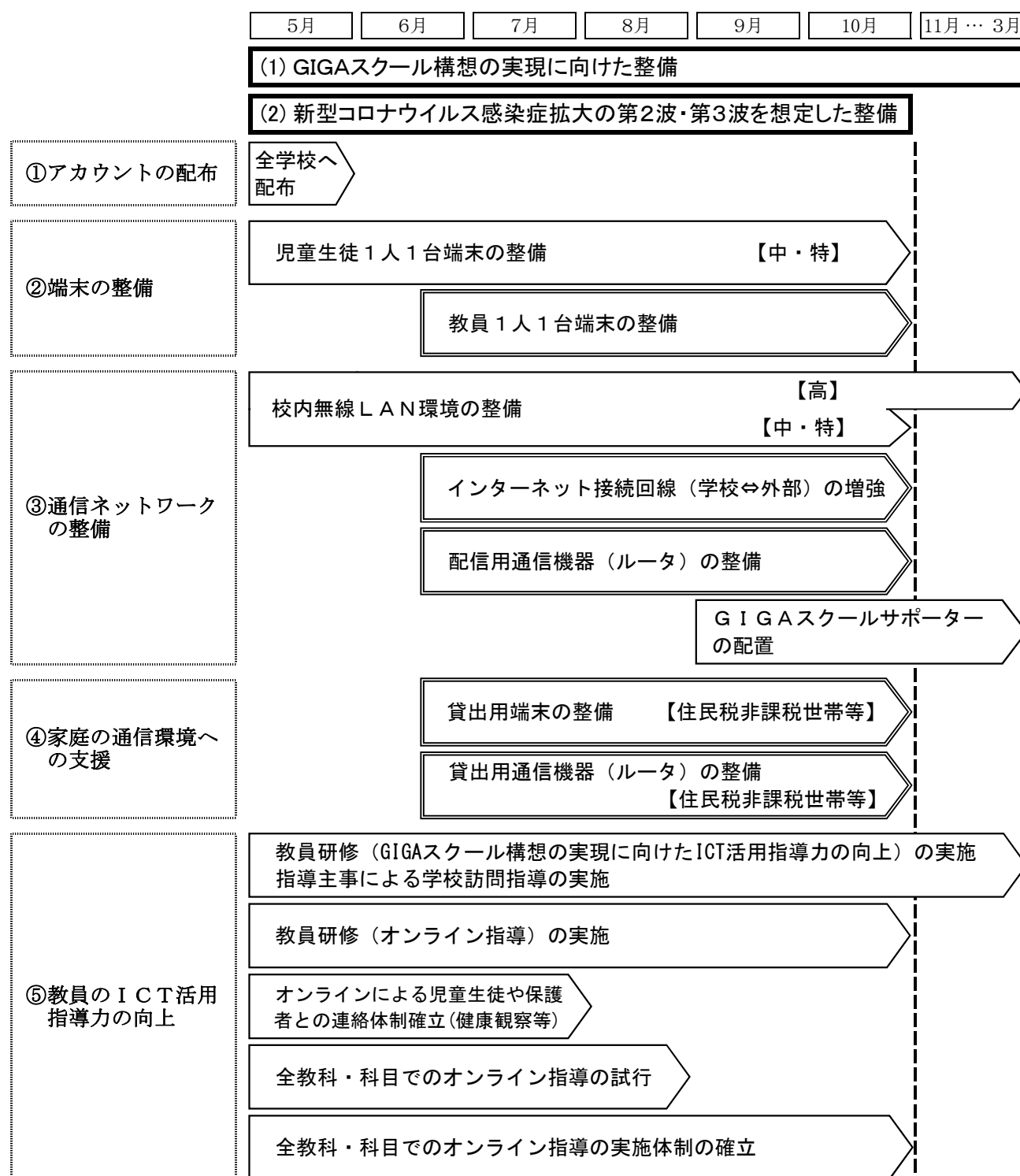
資格種目	人数
介護福祉士国家試験	37
合格率	100.0%
※全国合格率 (高校生)	77.9%

県立学校におけるICT環境の整備について

1 整備方針

- (1) 児童生徒1人1台の端末やICTを効果的に活用した学習活動の充実を図るため、GIGAスクール構想の早期実現を目指す。
- (2) 新型コロナウイルス感染症拡大の第2波・第3波による再度の臨時休業に備え、児童生徒の学びを保障するため、本年10月末を目途に学校ICT環境の整備を図る。

2 整備計画（令和2年度）



※二重線の矢印は、令和2年度6月補正（追加分）による整備計画である。

※②～④については、調達不調、納期遅延等が発生するおそれがあり、上記スケジュール内に事業が完了しない場合がある。

生徒1人1台端末を活用した



新たな学びを推進します

今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっており、これからの時代を生きる子どもたちにとって、パソコンやタブレット端末は、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げるために必要不可欠なものとなっています。

文部科学省は、児童・生徒1人1台端末（パソコン、タブレット端末）と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するGIGAスクール構想を推進しており、小・中学校では、令和2年度中に児童・生徒1人1台端末が整備される予定です。

岡山県教育委員会では、県立高校に生徒1人1台端末を活用した最先端のICT教育を取り入れるため、教育用クラウド環境や高速大容量の通信環境等のICT環境整備を進めています（令和2年度完了予定）。今後、県立高校及び中等教育学校後期課程の令和3年度又は令和4年度の入学生等から、学校が指定する端末を購入していただき、生徒1人1台端末の環境を実現していくこととしていますので、保護者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

「1人1台端末」の活用により、このような学びが実現できます。



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録



複数の意見・考えを議論して整理



1人1台端末を活用した家庭学習、オンライン授業



グループでの分担、協働による作品の制作

すでに個人購入により「1人1台端末」の環境を実現している
県立高校3校では、このような活用が進んでいます。

県立林野高校



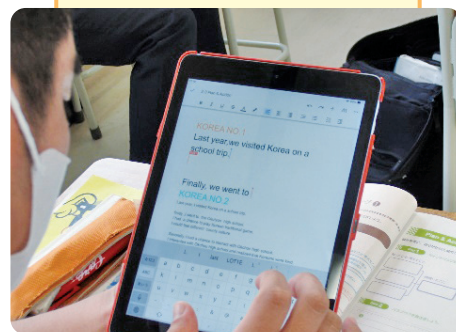
理科の実験結果をグループごとに端末に入力し、リアルタイムにクラス全体で情報共有して理解を深めています。

県立岡山操山高校



評論文を読んで、考えを入力し、リアルタイムにクラス全員で情報共有して、自分と他者との考えを比べて思考を深めています。

県立和気閑谷高校



課題の提示と回収をオンラインで行うことで、教員がリアルタイムに生徒の回答を確認でき、間違いの多い問題を重点的に説明するなど、より効果的な指導につなげています。

1人1台端末導入についてのQ&A

Q 全ての県立高校で同じ端末を個人購入するのですか。

A 個人購入（リースやレンタルの場合を含む。）により導入する端末は県立高校ごとに異なるため、金額も異なります。購入金額については、端末本体やバッグ等の付属品に物損保険料やフィルタリングソフトなどの代金を加えた金額を見込んでいます。

Q 端末は家庭で自由に使用することができますか。

A 端末は、家庭での学習にも活用することを想定していますが、各端末に導入した専用の管理ツールにより、不適切なサイトへの接続や、有害なファイル等のダウンロードには制限がかかることとなります。なお、端末は持ち帰り、充電は各家庭で行っていただきます。

Q すでに個人で所有している端末を学校に持ち込むことはできませんか。

A 端末は、学校の教育活動で日常的に使用するため、各端末に専用の管理ツールを導入し、適切に管理したいと考えています。端末が異なることで、ネットワークにつながらないなどのトラブル発生時に対応が困難になることから、学校が指定する端末の購入をお願いします。

Q 経済的な事情で、端末を購入することができない場合はどうすればよいですか。

A 住民税非課税世帯等で、端末を購入することができない家庭の生徒に対しては、貸出用端末を貸与する予定です。

Q 家庭での通信料は誰が負担するのですか。

A 家庭での負担となります（学校での通信料は県が負担します）。今後、家庭での活用が増えることも考えられますので、Wi-Fiなどの安定した通信環境の整備に御協力をお願いします。

Q どの学校がいつから端末を導入するのですか。

A 令和2年10月末までに、各学校の導入年度を岡山県教育庁高校教育課ホームページ等でお知らせする予定です。

岡山県教育庁高校教育課ホームページ

GIGAスクール構想に関するお知らせを随時更新しますのでご覧ください。



高校生の進路選択に関するアンケートについて

- 1 調査目的 岡山県内の専門高校等の生徒について、第1学年から3年間及び卒業後2年目の生徒を追跡調査して、進路指導と卒業後の適応状況を把握し、専門高校等における望ましい進路指導について研究する

2 調査内容

項目	内容
主体性	自分がどんな人間であるかを知っている等
学科への所属感	自分の学科・コースにプライドを感じる等
高校生活で頑張っていること	友人がたくさんいる、学校外でも勉強に時間を多く費やしている等
進路意識	自分の進みたい職業の分野については、自分から調べている等
生活満足感	自分の生活はうまくいっている等
ストレス状態	勉強（仕事）で心身ともにつらくなり疲れたと覚えることがある等
充実感	勉強（仕事）をしていると、活力がみなぎるように覚える等
学校適応感	学校において周囲に溶け込んでいる等（進学者のみ）
主観的大人意識	人生の居場所が見つかっている等

- 3 調査対象 岡山県内の専門高校等（約30校）の生徒

- 4 調査時期
- | | | | |
|-------|--------|-------|---------|
| 第1回調査 | 平成27年度 | 高校1年次 | 計4,732名 |
| 第2回調査 | 平成28年度 | 高校2年次 | 計4,390名 |
| 第3回調査 | 平成29年度 | 高校3年次 | 計4,331名 |
| 第4回調査 | 令和元年度 | 卒後2年目 | 計426名 |

- 5 研究代表者 広島大学大学院 教育学研究科 教授 杉村 和美

6 調査結果

回	結果
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 主体性は看護系・家庭科系で特に高い 岡山県の専門高校の生徒は、主体性が高い（他県比較）
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 1年生から2年生にかけて、多くの学科で進路意識が高まる 総合系学科は、他の学科に比べ主体性が低い
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 主体性は2年生から3年生にかけて一気に発達した 進路意識は1年生から着実に発達した
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活で主体性が高い生徒ほど、社会でのストレスも低い 高校の学びと仕事の内容が繋がる生徒ほど、仕事のストレスは低い